

論点整理表（第 1 期中期目標期間の業務実績）

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
1	5	質問	自己評価をIVとした理由はなにか。	地元企業等からの作品制作依頼に対する学内公募を継続実施したほか、地域プロジェクト演習をはじめとする演習科目において、アートやデザインによる地域の課題解決や活性化等に資する教育を積極的に展開したことから、自己評価委員会においてIV評価と整理されたものです。	企画課
2	13	質問	教員職員免許状および博物館学芸員資格の取得状況はどうか。	各取得実績は以下のとおりとなっております。 【教員職員免許状】 平成27年度：中学（美術）1名、高校（美術）2名、高校（工芸）1名 平成28年度：中学（美術）19名、高校（美術）20名、高校（工芸）6名 平成29年度：中学（美術）12名、高校（美術）16名、高校（工芸）2名 平成30年度：中学（美術）17名、高校（美術）17名、高校（工芸）7名 【博物館学芸員資格】 平成27年度：3名 平成28年度：27名 平成29年度：8名 平成30年度：18名	学生課
3	14	質問	演習単位数の「倍化」と学生・教職員負担の軽減との関係がよくわかりません。	演習単位において、授業時間数30時間で1単位としていたものを、15時間で1単位とする見直しを行っております。これにより、平日6時限目(17:50～19:20)に行っていた授業がなくなり、学生・教職員双方の負担軽減に繋がったものと捉えております。	学生課
4	16	質問	体系的な教育を取り上げる場合に、「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」に基づく体系的な教育課程や、授業科目間の関連性について、教員間で情報共有することが基本になると思いますが、この点に関する取り組みはどうだったのでしょうか。	平成29年度までは授業内容や授業の進め方等に関する情報共有が各専攻内のみであったことから、平成30年度からはFD委員会と学務委員会の共催で「現代芸術論」をテーマとする授業研究会を年2回開催し、「カリキュラムポリシー」を意識した授業のあり方について、全学的な教員間の情報共有に努めております。	学生課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
5	23	質問	具体的にどのような人物を選定・招聘したのか。	客員教授等の実績は以下のとおりとなっております。(連番21の再掲) 平成25年度：樂吉左衛門、会田誠、高階秀爾、荒川静香 平成26年度：高階秀爾、荒川静香、箭内道彦、秋本雄史 平成27年度：高階秀爾、荒川静香、箭内道彦、秋本雄史 平成28年度：高階秀爾、箭内道彦、秋本雄史 平成29年度：高階秀爾、箭内道彦、中村政人、吉岡洋、喜多俊之、田中直人 平成30年度：高階秀爾、北郷悟、吉岡洋、陣内秀信、田中直人、芹沢高志	学生課
6	31	意見	評価指標としてのFD取組事例数15件以上は、中期計画期間を通した目標なのか、最終年度の目標なのか、各年度の目標なのかわかるように、実績と対比した件数を記載いただきたい。	評価指標（FD取組事例数15件以上）は、中期計画期間を通した目標として位置づけております。本学のFD活動は、学生の授業アンケート、教員相互の授業参観、授業研究会（平成28年度から実施）を柱としながら、その他学内外の研修やセミナーへの参加等を通じて、着実に推進してきたところであります。 ※各年度の実績は記載のとおり	企画課
7	36	質問	奨学金の給付実績について、延べ人数を記載していると思われるが、同一人物が給付を受けている場合が多いのか。	選考方法がGPAによるものであるため、延べ人数35名に対して実人数26名と、同一人物が給付を受けているケースもあります。平成30年度からは、より多くの学業優秀で学業姿勢が模範となる学生に対して特待生の表彰を行うため、選考内容を見直し、特待生となる学生数を6名→12名に変更するとともに（奨学金は一人20万円→10万円に変更）、過去に特待生と決定された者は選考から除外することと改めております（但し、順位1位の者については、過去に特待生と決定された者であっても選考から除外しない）。	学生課
8	38	質問	看護師の大学での立場はどのようになっていますか。	看護師（常勤嘱託職員）は、学生の健康診断および健康調査票の実施に関わるほか、体調不良や怪我をした学生の応急処置などを主な業務としております。また、メンタル的なケアを要する学生には、臨床心理士を紹介しカウンセリングに繋げております。	学生課
9	43	意見	中期計画評価指標の計算要素からすれば、大学院の100%は参考数値であり、連番30と同様な記載になるべきと考えます。そうすると、全体で90%を切っているので、Ⅲ評価は、微妙に思います。	これまでの学部卒業生の進路決定率は、平均で88.8%となっております。当該数値は、他の美術系大学との比較において決して低いものとはとらえておらず、また、開学以来、学生に対する幅広いキャリア支援に努めてきたことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものです。	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
10	45	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課
11	46	意見	31と同様に、それぞれの指標について、実績と対比した件数を記載いただきたい。	中期計画の評価指標中、「査読付論文の掲載数」については、各年度の評価指標としておらず、自己申告ベースの把握に止まっていることから報告書への掲載を見送ることといたしました（事務局把握分：29件）。 ※その他の各年度の実績は記載のとおり	企画課
12	46	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課
13	47	意見	「教員の作品や論文を公開する」とことと、「研究成果を社会還元する」ことは、どのように結びついているのかわかりにくいと思います（63以下との関係）。	教員の研究成果については、展示会の開催や美術展への出展等による作品発表のほか、「研究紀要」の作成と公開等を通じて、その成果を社会に還元しているものと考えております。	企画課
14	48	質問	「大学退任記念展」という用語はわかりにくいと思いますが、例年の行事として確立した名称でしょうか。	退任記念展については、特に制度化・慣例化しておりませんが、本学の開学を含め、長きに渡り大学の発展に貢献し、平成28年度末で退任した3名の教授（渡邊有一氏、松本研一氏、五十嵐潤氏）の活動記録をテーマとする展覧会「椅子と記憶と感動辞典」を開催したものです。	企画課
15	48	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課
16	55	意見	IIIと評価しているが、IVと評価する考えもあるのではないかと。	（報告書に記載のとおり）海外のアーティストを招聘した滞在作品制作やワークショップを積極的に展開しておりますが、現状の受け入れ人数が少ないことや主たる滞在場所が「空き家」であること等から、自己評価委員会においてIII評価と整理されたものです。	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
17	63	意見	31、46と同様です。どれをカウントしたらよいかわかりません。75においても同様の配慮をお願いしたいところです。	教員の受託事業の実績は連番66に記載（再掲）しております。	企画課
18	63	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課
19	66	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課
20	67	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課
21	68	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課
22	71	質問	高校生のデッサンスクールへの参加者数はどうであったか。	開学以来、美術系大学を志す高校生に対し、社会人向けのデッサンスクールやオープンキャンパス時の作品指導を行っております。 平成30年度からは、同事業をアーツセンターあきたへ委託し、高校生向けのデッサンスクール（対象：高校生、延べ24名参加）と素描Lab（対象：延べ39名参加）として展開しております。	企画課
23	75	意見	【再掲】 31、46と同様です。どれをカウントしたらよいかわかりません。75においても同様の配慮をお願いしたいところです。	評価指標（海外における作品発表等3件以上）は、中期計画期間を通した目標として位置づけております。国際的な芸術祭等への出展や招聘など、教員の海外での活動については、引き続き支援に努めてまいります。 ※各年度の実績は記載のとおり ※数値訂正：平成30年度5件（3名）→14件（6名）	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
24	84	質問	「より客観的な評価を可能とする制度」とは、自己評価の項目を工夫したということでしょうか、自己評価を超えた評価制度ということでしょうか。この点に踏み込んだ記述はできませんか。	ご指摘のとおり「より客観的な評価を可能とする制度」とは、自己評価の項目を工夫したことを指しております。従前の定性的な評価から定量的な評価とすることで、活動実績の数値化・可視化による教員個々の教育研究活動の質の向上と、大学運営の質の向上を図るものであります。	総務課
25	90	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課
26	91	意見	IV評価は妥当と思われる。		企画課